

〈結果と分析〉

- ・「現場で役に立った本学での学びは何ですか」の問いに対しての自由記述で複数回用いられている単語は、「キリスト教」「保育」「障がい」「障害児」「保護者」「表現」「主体」「支援」「言葉」だった。その単語が単体として用いられている場合もあれば、さまざまな文脈の中で用いられている場合もあった。
- ・「学生時代にもっと学んでおけばよかったことは何ですか」の問いに対しては、「保育」「自分」「障がい」「ピアノ」「子ども」「保護者」「パソコン」であり、その単語の用いられ方は多様だった。
- ・「リカレント教育で受けたいことは何ですか」の問いに対しての回答は、「特になし」が4件、「経営について」が3件あった。その他「障害」「保育」「子ども」も複数用いられていた。
- ・教育の成果については、和泉短期大学4つのポリシーをもとにした和泉の10の力の育成がどの程度身についているかについて「十分」、「ある程度」「少しは」「身につける準備ができている」の4件法で質問した。
- ・このうち、「十分」との回答が他の項目と比較して多かったのは、「今、あなたは子どもや利用者の人権を尊重し、より豊かな人生を支えていますか」「今、あなたはさまざまな人々が共生する社会の実現に貢献していますか」「今、あなたは、思いやりの心で子どもや利用者に寄り添い、地域や社会の保育・福祉の発展に寄与できる人材として活躍していますか」であり、いずれも57.7%が「十分に身についている」と回答した。
- ・一方、「和泉短期大学は、キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」建学の精神を基本としています。今、あなたは、倫理観をもっていますか」「今、あなたは、保育・生活技術を十分に身につけ、自らの考えに基づき主体的に行動していますか」については、「少しは」あるいは「身に付ける準備ができている」との回答が他の項目よりも多かった。
- ・なにぶん回答数が少ないため、これらによって何らかの傾向を把握するまでには至らない。この状況を改善すべく、次年度以降は大学の刊行物（IZUMI NEWS）にQRコードを載せたり、学園祭で来校する卒業生に直接回答をお願いしたりするなど、回答率向上に向けた対策が求められる。